

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①令和4年度導入した教育課程を検証し、共通及び専門教科の学力向上と課題解決能力を育むことで専門性の向上を図る。</p> <p>②生徒の主体的な行動を促し、生徒会活動や農業クラブ活動を充実させる。</p>	<p>①課題解決型学習への取組を更に実践し、「専門性の向上」を図り、生徒の課題解決能力の向上を目指す。</p> <p>②特別活動の魅力を伝えるとともに、生徒の意欲を引出す。生徒会活動や農業クラブ活動での活動を実践し、課題解決能力の向上を目指す。</p>	<p>①研究授業や授業観察等において教員同士の相互評価の機会を設定するとともに、全ての教科において、昨年度より課題解決型学習を伴う授業実践の回数を増やす。</p> <p>②地域貢献活動や各種発表会の機会を紹介し、積極的な参加を促す。プロジェクト学習の定着から専門研究部でのプロジェクト活動に発展させ、各種発表会等への参加を促す。</p>	<p>①実践した課題解決型学習について、職員による相互評価並びに生徒による授業評価から課題解決能力の向上が見られたかを確認する。</p> <p>②各種大会や競技会への参加及び地域貢献活動において、前年度の活動実績を上回ることができたか。</p>					
2	生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣を確立・定着させるとともに、規範意識の醸成を図り、ホームルーム活動や部活動を通して、豊かな人間性、社会性を育む。</p> <p>②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導と生徒支援の両立を目指しながら、体制の充実を図る。</p>	<p>①正門や昇降口での登校指導を実践し、基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の定着を図る。また、新制服導入に向けて服装規定の見直しを行う。</p> <p>②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導と生徒支援体制の充実を図る。</p>	<p>①服装や挨拶・遅刻指導を継続し、基本的な生活習慣を身に付けさせるため、家庭とも緊密に連携し、学校生活のあらゆる場面において全教職員で生徒への支援を行う。生徒の実態に応じた指導の在り方を不斷にすすめる。</p> <p>②生徒支援体制の充実に向け、教育相談やサポートドック等を活用し、SC・SSWと情報共有してスクリーニング会議、ブッシュ型面談を実施する。また、えびな支援学校のセンター的機能を活用する等、個々の教育相談の機会と充実させる。</p>	<p>①多様性に配慮しつつ、適時適切な指導が実施できたか。身だしなみや遅刻に係る状況に改善の傾向が見られたか。 新制服導入に伴う服装規定の作成ができたか。</p> <p>②生徒支援体制を軸にした教育相談における実施状況、生徒情報の共有が適切に行えたか。また、えびな支援学校の巡回指導やカウンセリングにおいて生徒をどのように指導できたか。</p>					
3	進路指導・支援	①体験的学習を重視し、勤労観・職業観を育成するため、農業体験活動並びにインターンシップ活動の充実を図る。	①勤労観・職業観を育成するため、農業体験活動並びにインターンシップ活動の充実を図る。	①勤労観・職業観の意識向上を目指し、協力企業・農家へのアプローチや生徒の事前指導を徹底する。また、報告会で発表させる等の	①農業体験活動やインターンシップ活動等への参加者が増加したか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		②社会的自立に向けた教育の充実に取り組む。	②生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路説明会・進路別ガイダンスを計画的に行う。	事後指導の充実を図ると同時に生徒への周知の機会を増やす。 ②面談等を通じて生徒一人ひとりの進路希望を把握し、実現に向けたサポートを全職員で実施する。また、1・2年生の早い段階からの進路実現に向けた意識付けを行う。	②個別に丁寧な進路指導を行い、生徒の希望どおりの進路実現が図れたか。進路別説明会が計画どおり実施できたか。					
4	地域等との協働	①学校の教育力（農業）を活かし、地域との協働・連携を一層強化することによって魅力ある農業の発信拠点となる。 ②えびな支援学校との連携・交流をとおして、インクルーシブ教育の推進を図り、いのちや人権を尊重する精神を育む。	①産業界との連携を進め、農業教育を活かした本校の活動を地域に発信し、地域との協働活動を推進する。 ②えびな支援学校との連携・交流を様々な場面で行い、インクルーシブ教育への理解を深める。	①就業体験活動や校外販売実習等の校外活動を積極的に進め実践させることにより、地域や社会の発展を支える意識と態度を身に付けさせる。また、地域の方を外部講師として活用していく。 ②学校農業クラブを中心に行い、えびな支援学校と農福連携授業を開催し、動植物を介在し、生徒同士の触れ合いを通してインクルーシブ教育の理解を深める活動を開催する。	①地域からの要望を踏まえつつ、地域との連携・協働活動を拡大し、生徒の活躍の機会を増やすことができたか。また、広報活動を行うことができたか。 ②えびな支援学校との連携・交流後アンケート等を実施し、障害者理解が深まったとする回答率が向上したか。					
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事防止の徹底を図り、生徒にとって安全・安心そして信頼される学校づくりを推進する。 ②学校施設環境を整備するとともに有効活用を行い、魅力ある学校づくりを進める。	①風通しの良い職場づくりを意識し、同僚性を高め、当事者意識を持つことにより、事故・不祥事防止の徹底を図る。また、会議、業務等の効率的な運営を図り、働き方改革を進めめる。 ②学校施設環境の整備を推し進め、最新の施設と設備のもと魅力ある教育内容の充実を図り主体的に学ぶ意識を高める。	①人権を意識した校長メッセージ及び校内研修を実施する。生徒に対して学年・教科等と連携し、複数職員で対応する体制を整える。生徒の主体性を引き出す指導をし、強制的な指導にならないよう努める。業務の効率化を推し進める。 ②課題となっている外灯の設置や老朽化施設設備・備品等を更新し、生徒にとって快適な学習施設環境を整備する。実験・実習において農器具等の取扱基準を順守し、事故をゼロにするよう取組む。	①生徒の支援体制における情報共有が確実になされたか。職員の業務分担が明確にされ、かつグループ業務が計画どおり実施できたか。 ②安全・安心な学習環境の整備が行えたか。また、施設設備・備品が有効に活用されたか。実験や実習での事故防止ができたか。					